

財政分析ソフト「神奈川システム」を使ってみた！第2弾

2022.5.17 神奈川自治研センター

京都市は昨年 8 月、令和 2 年度（2020）の一般会計決算速報値で実質収支が 3 億円の赤字になると発表した（日経新聞 2021 年 8 月 4 日）。

実質収支は、当該年度に属すべき収入と支出との実質的な差額をみるもので、形式収支から、翌年度に繰り越すべき財源を控除した額。

通常、「黒字団体」、「赤字団体」という場合は、実質収支の黒字、赤字により判断する（総務省の用語解説）、とのことなので京都市は赤字団体ということになる。

では、赤字団体とは何か？自治体財政の危機とは何か？

京都市決算、大幅赤字

京都市は 4 日、2020 年度の決算速報値を発表した。新型コロナウイルス感染拡大の影響で一般会計の収支は 172 億円の赤字となり、04 年度以降最大の赤字幅となった。市営地下鉄は 54 億円の赤字で、累積資金不足額は 371 億円となり、経営改善についての計画策定が義務付けられる「経営健全化団体」に陥ることが確定した。

市税収入は 4 年ぶりに減少し、前年度比 96 億円減の 2959 億円。宿泊税が前年度比 7 割減の 13 億円になったほか、法人市民税の減少幅が大きかった。外出自粛の影響で二条城など市所管の施設の使用料・手数料収入も 20 億円減少した。

市は従来、将来の借金返済に備えるための「公債償還基金」の計画外の取り崩しなど特別な財源対策を経た上で収支を公表していたが、20 年度決算から財源対策前の実態的な数字を明示するようにした。これまで通りの財源対策後の収支だと 3 億円の赤字だという。

2021 年 8 月 4 日 日経新聞より

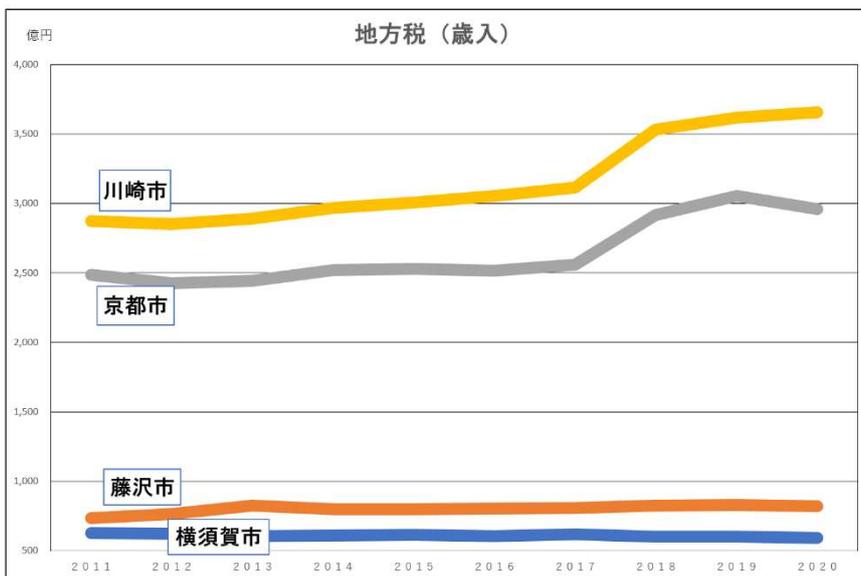
財政分析ソフト「神奈川システム」を使って京都市と神奈川県内の自治体（藤沢市、横須賀市、川崎市）との経年比較をしてみた。京都市の説明をもとに決算状況をグラフにして比較してみるとおおよその傾向は読み取れた。「神奈川システム」は使ってみると面白さがわかるのだ！

「市民税や施設の使用料収入が減少、一方で社会福祉関連経費が増加」（京都市）

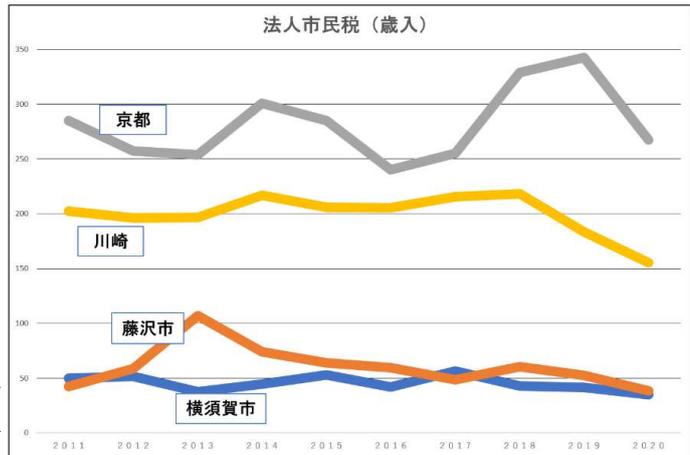
「神奈川システム」では、最新の決算データ（2020 年度）から県内自治体と全国の政令市の歳入・歳出や、人口、職員数などのデータを読み出すことができる。

京都市が減少要因とした地方税の経年比較をしてみた。たしかに京都市の 2020 年度は右肩下がりになっているのがわかる。

ちなみに、京都市と川崎市は人口、歳入・歳出の規模がほぼ同等、藤沢市と横須賀市もほぼ同等の自治体だ。

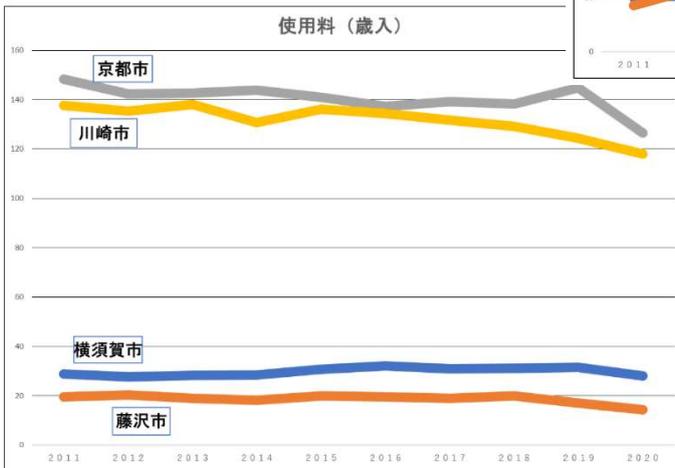


地方税の内、法人市民税の推移も読み出せる。京都市は法人市民税の水準が高いが変動が大きい。2020年度決算ではガクンと減少している。



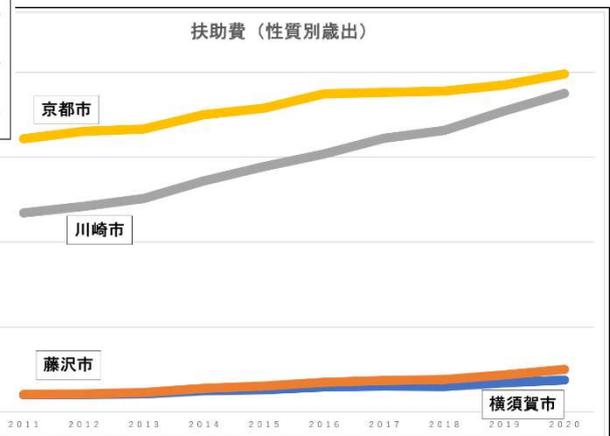
次に使用料の推移をグラフ化してみた。京都市は、「新型コロナによる影響で外出自粛等に伴い、施設使用料・手数料収入が減少した」と説明している。

使用料は右肩下がり？

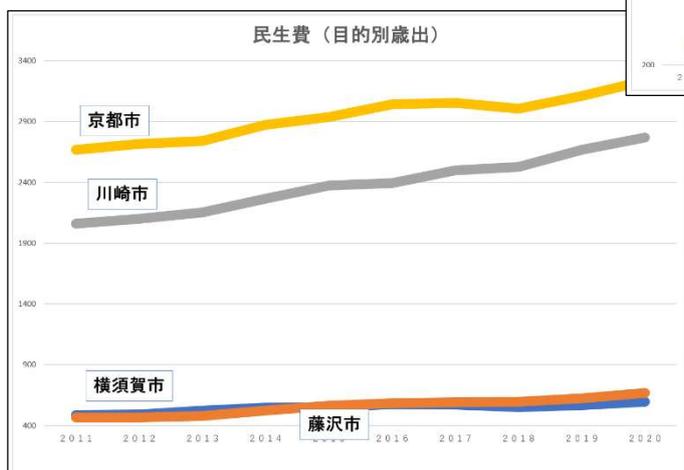


歳出増加の要因として挙げられている社会保障関連経費をしてみる。

性質別歳出の扶助費、目的別歳出の民生費の推移をグラフ化した。



右肩上がり傾向はどの自治体も同様だ。性質別歳出は、経費の経済的性質に着目した歳出の分類で、義務的経費、投資的経費、その他



の経費に大別できる。人件費、扶助費、公債費は義務的経費だ。

目的別歳出は、行政目的に着目した歳出の分類。民生費は、保育所の経費等の児童福祉費、障がい者の援護に要する経費等の社会福祉費や生活保護費などが含まれる。

財政用語の解説は「神奈川システム」の財政説明や財政セミナーテキストなどを参照してほしい。

このように財政分析ソフト「神奈川システム」は、決算カードを基にしたデータ分析を容易にできる Excel ソフトだ。ソフトと使い方は「産別ネット・ファイル管理」の神奈川県本部フォルダに収納している。ダウンロードして活用してほしい。